
素庵日記

春野一人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

素庵日記

【Nコード】

N5504X

【作者名】

春野一人

【あらすじ】

春野一人（素庵）の日記 つれづれなるままに、日々の良からぬ事を書きしるせり。一種のゴミ箱、パンドラの箱。悪臭あり、要注意！

11年10月13日

2011年10月13日 木曜日 それでも、暑い日がたまにある。昨晚、日本テレビ、夕方のニュース番組「エブリー」に、素庵め登場。信州妻恋の高原のキャベツ畑で、わが恐妻に愛を叫ぶという、おぞましい画面が繰り広げられました。素庵、ちょっと太めだが、わが愚妻の友、曰く「かつこいいじゃん」に愚かな素庵、たちまち気を良くする。しかし醜態が展開するのではという思いで緊張したのであるうか、疲れ果て、お子様就寝時間の午後八時に寝てしまった・・・。

さて、カルカヤの歌を書き終えたあと素庵こと春野一人は毎日酒に溺れ、女を追いかけ回し・・・と、言うことでもなく、次作は歴史小説の予定なので、あらずじ、登場人物、時代のイメージを、下手な字でノートに書き散らしているところなのであります。必ずや近々に、再登場しますので、乞うご期待！

先日は、映画、「猿の惑星・創世記」を見ました。前作「猿の惑星」「続猿の惑星」は名作でしたが、今度の新作も見応えのあるものでしたな。

11年10月14日（金） 晴

10月14日 厚生労働省は10月11日の社会保障審議会（厚生相の諮問機関）の年金部会で三つの案を提示した。厚生省は年内に改革案を取りまとめる予定だという。三つの案と言うのは、？厚生年金の支給開始年齢を3年に1歳ずつ引き上げるというスケジュールを「2年に1歳ずつ」に前倒しして、65歳に引き上げる。？厚生年金を65歳まで引き上げた後、基礎年金も支給開始年齢を3年に1度引き上げて、最終的には68歳支給開始とする。？2年に1歳ずつまえ引き上げを早め、さらに2年に1歳ずつ引き上げて、基礎部分も含め68歳支給開始とする。

これに先立つ、六月の民主党の社会保障に関する論議では70歳までの引き上げに言及した論もあったと言っ！

こうした正に逃げ水といわれる、詐欺まがいのことが、いとも易々行われる事に素庵は怒りを感じる。

こんな事では、年金に対する国民の信頼は低下する一方ではなからうか。財源が足りないと言っことで、このような論が、慎重な国民的議論もなく発表されて良いものであるうか。やはり民主党もだめだ。

十月十五日(土) 小雨

久々の雨模様。震災による原発の駆動停止により、妻の仕事が日産関係のため、土・日出勤になっていた。それで私の土・日の休日とあわず、夫婦すれ違い休日となってしまうていた。十月に入り、やっとその魔法も解けて、仲良く(！)休日が一緒になった。

二人連れだつての遠出も三ヶ月なかつたので、今日は日帰り温泉行である。常磐道・谷和原ICより車で10分の「きぬの湯」が目指す場所である。入浴料は土・日1200円(回数券利用で千円)。源泉かけ流しので塩化物質泉・36.6度・毎分229L・、黄色を帯びた透明な泉質は東北に多い、非常に和む香りを持っていて良いグレードである。東京から車で30分で、この良質な温泉に出会える事は貴重と言える。施設も広々と綺麗で、妻はボデイケア・足マッサージ込み一時間6000円で

強固な疲れが抜けたと満足のようす。えびす生ビールは香り高く・こだわりの料理も旨く・ボリューム・お値段は納得のもの。又、嬉しい充実した産地直売コーナーもある。周辺は筑波エクスプレスによつてできた新造の住宅が散在して、若干郊外の住宅地という感じだが、広々とした感じは消えていない。駐車場は230台と余裕があるが、電車で行くなら常磐線&筑波エクスプレス守谷駅から要予約で送迎バスがあるそうだ。電話は0297-20-3751である。

10月18日(火)

10月18日(火) 日曜日、例によって「ちい散歩」をする予定だったが、なんと30度近い、真夏日。なまくら素庵は、さつさと戦線を撤退し、シネコンに逃げ込んだ。シネコンで目についた「ツレがうつになりまして」を見ることにした。この作品は細川貂々《ほそかわてんてん》の原作で、これは鬱病になった夫、望月昭さんとの闘病記をイラスト付で描いて2006年にベストセラーとなった幻冬舎刊「ツレがうつになりまして」の映画化だという。監督は人情劇に定評がある佐々部清。暗い話なのかと思ったが、タイトルのおかしさを裏切らず、暖かい映画に仕上がっていた。この映画には忘れられない良い言葉がたくさん転がっていて春野一人のペンネームで作品を書いている素庵に切り込んでくる言葉があった。売れない漫画家である、ツレの妻は、職場の親しい上司にこう言われる「あなたは、あなたが書いている作品が本当に面白いと書いて書いているかね? そのよう漫画が人を引きつけると思いませんか?」そこでツレの妻は書くべき作品のヒントを得るのである。素庵も突然春野になって、そうだそうだとこのシーンにうなずいてしまったのである。結論、この映画は過酷な企業社会の荒野に咲く、癒しの美しい花である。

10月20日(水)

仕事の後、午後六時過ぎ、市立図書館に日本書紀と白村江を扱った2冊の本を返した。読むのに時間がかかったので、返却期限を過ぎてしまった。さて、今度は「日本書紀は独立宣言書だった」明かされた建国の謎」 山科誠著 昭和20年 金沢市生まれ 慶大経済学部卒 昭和42年小学館販売を経て昭和44年バンダイ入社 昭和55年同社代表取締役就任。角川書店平成八年刊。二冊目は、吉川弘文館・・・いつも資料としてお世話になりますなあ、現代語訳吾妻鏡は良かった！・・・ 歴史ライブラリー229の「古事記のひみつ・歴史書の成立」平成十九年刊 三浦佑之すけゆき(昭和21年三重県生まれ。昭和50年千葉大学院人文社会科学科教授。著書に口語訳古事記・万葉びとの「家族」誌・等。三冊目は「日本書紀のすべて」 新人物往来社平成3年刊 武光誠著(本に著者略歴なし。素庵調べ・1950年生まれ・日本史学者、明治学院大学教授。山口県生まれ。東大大学院国史学専攻、1980年明治学院大学に勤務。2008年東大博士課程を修了「古代太政官制の研究」で文学博士、明学大教養教育センター教授となった。およそ200冊の著書があり、研究者として知られている)

まさに、さまざまな人が古代史の解明に取り組んでいるのだなあと思う。素庵も虎の威を借る狐として、のこのこついて行くことにしよう。

そのほか、日本書紀の研究書である「釈日本紀」「日本書紀私記」を予約して帰宅した。夕飯は、ブリの煮付け、なめこ味噌汁、レタスのサラダ、発泡酒350ml1缶である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5504x/>

素庵日記

2011年10月19日08時13分発行